

平成25年度 地域懇談会

平成26年2月11日(火)

午前10時～11時45分

健康文化センター1階 多目的室

1. 「参加と協働の約束に基づく制度施行規則」第27条による課題

子どもの安全・安心を守る

2. 対象地域

南地域(秋田・豊田・大屋敷)

3. 懇談会パネリスト(9名、敬称略)

三輪初昇、松山章恵、安藤 巖、村田充良、宮地俊行(以上、南地域自治組織推薦者)

大口南小学校長 千田正仁、大口町長 鈴木雅博、建設部長 野田 透

地域協働部長 鵜飼嗣孝

4. 懇談会進行

副町長 大森 滋

5. 司会進行

地域振興課長 佐藤幹広

【司会（佐藤地域振興課長）】 改めまして、皆さんおはようございます。

皆様方には、大変お忙しい中ご参集いただき、誠にありがとうございます。ただいまから地域懇談会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めます地域振興課長の佐藤と申します。よろしくお願ひいたします。この地域懇談会は、まちづくり基本条例の規定にもとづき、町長がまちづくりの担い手とともに、大口町のまちづくりについて意見交換をする場として開催するものです。本年度は「子どもの安全・安心を守る」をテーマに、特に登下校時における子どもの安全・安心について意見交換をさせていただきます。

今回の地域懇談会では、子どもたちの登下校を中心に話を進めさせていただきますが、子どもたちの安全・安心を守る取り組みは、高齢者や障害のある方のみならず、多くの方にとっても、安全・安心で、やさしいまちづくりにつながるものと考えます。50年後も大口町が、安全・安心なまちであるために、今のありようを見つめ直して、次の世代へつないでいく第一歩としたいと考えています。

これから、地域・学校・行政のそれぞれの取り組みについてご紹介をいただくとともに、現状における課題・問題点を共有し、皆様からご意見・ご提案をお聞きしながら、今後の進むべき方向について、一緒に考えていきたいと思ひます。

ちなみに南地域では、「南小校区あんしんパトロール団」の皆さんと「豊田グリーングラウンドパパ」の皆さんに、子どもたちの登下校の見守りをいただひています。

本日は南地域自治組織からのご推薦を受けて、パネリストとしてご出席をいただひていますので、ご体験に基づいた、貴重なご意見がいただけるものと期待いたしてあります。

それではパネリストの皆さんをご紹介いたします。

〔パネリスト紹介〕

【司 会】 以上の9名でございます。

それでは、副町長の大森滋を座長に、座談会方式で意見交換を進めてまいりますので、よろしくお願ひをいたします。

【座長（大森副町長）】 皆さん、おはようございます。

副町長の大森です。よろしくお願ひいたします。

きょうは「子どもの安全・安心を守る」というテーマで、各地域で活躍をしてみえます団体の代表の方、あるいは保護者の代表の方、学校の先生、町の職員、さらには町長が出席をしまして、「子どもの安全・安心を守る」というテーマでこれからお話を進めさせていただきますたいと思ひます。

先ほど司会のほうからもありましたように、現状における課題、問題点を共有して、できたら子供の安全と安心をいかに守っていくかという方向性を少しでもまとめることができると、こんなふうにお願ひしておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、10時50分まででありますので、約50分ぐらいの時間ですけれども、パネラーによる発表ということで、きょう御出席をいただひたパネリストの皆さんから1人4分か

ら5分で発表していただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初に三輪初昇さん、よろしくお願いいたします。

【三輪初昇氏】 御指名をいただきました、南自治組織の三輪でございます。

私ども南自治組織は、昨年の12月8日に設立をしたばかりでございます、それまでに行政区を初めとします皆様方の御協力をいただき、また町の指導のもとに設立いたしました、本当に新しいほやほやの組織でございます。今、司会者のほうからお話ございましたが、時間も四、五分ということ、この自治組織がまだ活動まで至っておりませんので、現在考えていることにつきましてお話を申し上げたいと存じます。

きょうは、南地域のほかに、北地域の会長さん、また中地域の会長さんにも御出席をいただいております。ということで、大口町では3つの今までにない新しい自治組織が設立をし、それぞれ取り組んでみえるところでございます。

私ども南地域自治組織の目指す姿といたしましては、安全で安心できる住みよい地域づくりを実現すること、住民相互のきずなを強め、自助・近助・共助の精神を高める。また、住民、事業所、活動団体などが性別や世代、行政区の垣根を越えて地域課題を解決するという、この目指す姿をもってこれから活動をしていきたいということでございます。

今、2月に入りましていろいろと、活動まで行っておりませんが、協議をしております。ということは、26年度に向けてどのような事業を行っていくかということで、今取り組んでおるところでございます。

事業計画、また予算等に当たりましては、やはり地域内の皆さんから本当にいろんな意見をお聞きしたいということをもとに進めていきたいということで、そうした意見の場を私どもは座談会というような取り組みをして、これから進めたいというふうに考えてございます。

きょう、受付のところで「南地域まちづくりのかわら版」8号というのをお渡しさせていただいたと思いますけど、その中に入る書いてございますが、私ども26年度に向けて、当面の間は何をテーマにしていこうかということで協議をした結果、やはり当面のスローガンとしては、「子供にやさしい地域づくり」ということをスローガンにしております。子供は地域の宝でございます、子供に優しい地域は高齢者にも当然優しく、ひいては地域全般に優しいということにつながると思います。ということで、「子供」をキーワードにいたしまして、きょうのテーマにも関係してまいります、防犯と交通安全、それから地域の皆さん方にいろんな情報を発信するというので広報と、この3つの活動に取り組んでいきたいと思っております。

「子供」をキーワードにいたしました防犯部会、交通安全部会、それから広報部会を設置いたしました、今、活動をさせていただいております。この1月18日には第1回目の座談会を、このときには理事とまちづくり委員、全体で45名でございますけど、この方たちがそれぞれの部会に分かれまして、忌憚のない意見をいただきました。当然、防犯と交通安全ということでございますので、きょうのテーマでございます通学路の問題も多くそれ

ぞれ意見が出されておりますが、これをもとにしまして今予定をいたしておりますのは、2月16日に2回目の座談会を開催し、いろいろ詰めていこうと。そうしたものを土台にして、今予定をいたしております3月8日に、それぞれ今活動していただいております皆さん方の意見をお聞きして、26年度の事業に向けて計画を立てていきたいということでございますので、またそのときにはお願い申し上げたいと思っております。

私どもは、まず地域の皆さんとの対話の場を大切にしたいということをモットーといたしております。やはり対話の場というのは、話し合いの場であり、報告の場であり、参加・参画の場として今後取り組んでいきたいと思っております。既にさまざまな活動に取り組んでおられます方々と意見交換をいたしまして、今後は御協力をいただきながら進めていくということ。また、きょうのこの懇談会でのいろんな皆さん方の意見を次からの座談会のテーマとして持って帰りたいと思っておりますので、何分よろしくお願いいたします。

今回のテーマの通学路の問題についても、この座談会の中で出ておりますのは、今、通学路がどこだということを知らないという方が相当多いということと、いろんなそうした表示だとか、そういうものもわかりにくいということで、マップづくりをしたらどうだというような意見が出ておりますけど、マップをつくると、逆に不審者に情報提供をするんじゃないかというような意見も出ております。いろんな意見が出ておりますけど、これをこれから詰めて課題解決に向けて進みたいと思っておりますので、今後とも御協力をいただきますよう、よろしくお願いをし、発表とさせていただきます。ありがとうございました。

【座長】 ありがとうございます。

それでは、安藤巖さん、よろしくお願いいたします。

【安藤 巖氏】 改めまして、おはようございます。

南小学校区の安心・安全パトロール団の代表をしています安藤巖と申します。よろしくお願いいたします。

現在、パトロール団の団員は、北校区、あるいは西校区の100名前後に比べまして少数でございますが、現在は9名でございます。

団員の内訳といたしましては、地域の区長のOB、あるいは警察官のOB、また学校の先生のOB、それから一般の主婦の方と多種多彩でございます。年齢につきましても、60代から、一部80代の方も見えまして、だんだん高齢化しているというのが現状でございます。

パトロール団の設立の背景といたしましては、平成17年6月に発足いたしました。その活動のスタート地点では、全国的に各地の子供が不審者から被害を加えられるという事件が多く発生し、中でも池田小学校事件は有名でございます。成人の男性による児童の連れ去り、あるいは傷害事件が続発し、関係者の間で早急な対策が必要とされました折から発足してございます。

当時は、児童の下校の安全の見守りが主な目的でございましたけれども、現在では朝の

登校時に通勤の自動車が多い時間と重なり、児童が安全に登校できるように、防犯と交通安全の両方を行っているのが現状でございます。朝は交通安全、午後は防犯と、そういう形で行ってございます。

具体的には、朝の登校時には団員が校区の子供たちのそれぞれの集合場所に集まり、小学校まで、あるいは近くのポイントまで同行して児童の安全を確認して、小学校へ送り届けているということでございます。

帰りの下校時につきましては、小学校から毎月下校時刻のシナリオをいただいております。それに基づき、学校近くのポイントまで出迎えし、また朝と同じように集合場所及び自宅まで送り届けているというのが現状でございます。

前についているのがそうございまして、1人の場合は先頭、あるいは若干後方に行くかわかりませんが、後方に付き添って児童の安全を見守っているというのが現状でございます。

また、1学期の4月には入学式、あるいは始業式等に係る一連の行事、また5月には先生によります家庭訪問、5年生の自然教室、6年生の修学旅行等、いろんな行事があります関係上、下校時刻が一定ではございませんので、小学校との連絡を密にして、これに当たっているのが現状でございます。

いずれにいたしましても、児童の下校時間は、週2回のバスの下校を含め、毎日、低学年と高学年に2回に分かれての下校でございますので、低学年を迎えに行き帰ってきますと、すぐ高学年の出迎えに行かなければならないというようなことございまして、特に冬場は午後の時間が短いということでございますので、大変でございます。

この場所に豊田地区と大屋敷地区の方がお見えになりますので、秋田地区に絞って言いますと、全体的に通学路は歩道があり、安全でございますけれども、車道を横切るときには信号がありません。具体的には、替地地区におきましては、今の一丁目ですけど、西郷前から児童の集合場所である天神社へ行く場合、それから丸栄工業さんの前のところ、伝右地区では美乃寿司さんの前、あるいは守口だいこん工場の前など、いずれも信号がなく、車道を横切のに懸命で、事故が起きるんじゃないかということで心配でございます。

そんな中で、一昨年、平成24年11月でございますけれども、大口町主催の交通安全総点検、役場と警察の方がお見えになりましたけれども、私どもを含めて総点検を行いましたところ、高橋・替地線の信号の設置、あるいは当時、下水の関係で道路にわだちがありまして、雨が降りますと、上から雨が降ってくるより、わだちからのほうがひどいというようなことで要望いたしましたところ、先ほど申しましたように、ここにも若干信号機がありますけれども、信号機の設置、あるいは道路の舗装を年度内に早急に行っていただきまして、児童ともども喜んでいただいております。

小学校との連携といたしましては、毎学期ごとに小学校の先生との情報交換を行い、情報の共有化を図っております。そのときに児童からはお礼の言葉をいただき、またその後、児童と一緒に下校しております。

地域の活動といたしましては、秋田地区におきましては、数年前より、3月の子ども会主催の6年生のお別れのときに御招待いただき、児童の代表者からお礼の言葉を受けておりまして、こんなとき、児童、親御さんの笑顔を見るとき、パトロールをしてよかったなあ、それと事故がなくてよかったなあというのが実感でございます。

いずれにいたしましても、毎朝、毎日が「おはよう」「ただいま」「お帰り」というような運動でございまして、御父兄、先生にはかないませんが、児童たちとより多く接していると思っております。

それから、南校区でございますけれども、私どもは青色パトロール活動を平成19年度より実施しております。週一、二回、主に午後でございますけれども、校区を回っているというのが現状でございます。

今後につきましては、いずれにいたしましても終わりのない息の長い仕事でございますので、先ほど申しましたように60代、70代、80代の方がお見えになりますので、健康には気をつけて、無理をしないようにしたいと思っております。

幸いにも、伝右地区につきましては、来年度、平成26年度から地区全体でパトロール隊の応援を上げてくるということを聞いておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。また、替地地区につきましても、二、三名の方が参加してもいいよというようなことを言っておみえになります。

先ほど冒頭に申しましたように、南校区は、北校区、あるいは西校区に比べましてパトロール隊の人数が少ないですので、きょうお見えの方も、一人でも多くの方が参加されまして、児童が安心して通学でき、勉学に励むことができますように役に立てればいいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。ありがとうございました。

【座長】 ありがとうございました。

続きまして、南小学校のPTA会長の宮地さん、よろしくお願ひいたします。

【宮地俊行氏】 大口町南小学校のPTA会長をやっております宮地俊行でございます。よろしくお願ひします。

大口町の南小学校のPTAの組織なんですけれども、会長1名、副会長3名、庶務1名、会計1名、あと顧問、前年度にやっていた会長が顧問に残っておりますけれども、その役員7名と、あと地区常任委員28名の代表の方で校外指導委員会、広報委員会、厚生委員会、図書委員会と、4つの組織に分けてPTA活動をやっております。

きょうは、通学路の安全・安心について行っている活動について紹介させていただきたいと思ひます。

主に校外指導委員会というところが中心になってやっております。

まず初めに、学校の正門に立って挨拶運動をやっております。こちらは、今回、挨拶運動と町内一斉挨拶運動に参加しておりまして、大体年間18回ほど、出る方は常任委員さんで回しておりますので、大体この28名の方で回って、きょうはこの方とかという形で活動

しております。

あとストップマーク、道路とかにつける足形マークなんですけれども、こういったものが薄くなっているところがありますので、それをまた再び塗り直すという活動をしております。

そのほか、夏休み期間だけなんですけれども、ヨシヅヤとかアピタへ行って、校外指導も行っています。子供たちだけで来ていないかとか、いろんなことに巻き込まれていないかということをやっと注意しながら活動しておるということです。

そのほか、地区常任委員さんですが、先ほどの28名全員で、通学路の危険箇所の洗い出しを行っております。これは、ふだん子供たちの通学路を実際に歩いてもらって、危険な箇所を要望書として学校に提出します。それを学校のほうでまとめて、行政、大口町役場のほうに改善してくださいということでお願いする文書を毎年提出しております。

そのほか、救急法の講習会がありまして、こちらは心肺蘇生法とかAEDの操作を積極的に参加して習得しております。

そのほか、これはPTA会員の中で、委員さんも含めてなんですけれども、会員なので全部親御さんですので、親御さんを全部含めた形で、参加できる方のみなんですけれども、PTA防犯活動という題目で見送り・出迎えパトロールという取り組みをしております。これは、自宅から集合場所までとか、また集合場所から学校まで、また自宅から学校までも結構なんですけれども、登校時に引率したり、また反対に下校時に迎えに行ったり、集合場所まで迎えに行ったりというような活動をしております。こちらは、時間の許す方のみですので、きょうは見えないとか、あしたは行けるとか、そういった形で自由に参加してもらっておる取り組みが、見送り・出迎えパトロールという取り組みです。

簡単ではございますが、以上がPTAの行っている通学路などの安全・安心についての取り組み内容です。

【座長】 ありがとうございます。

続きまして、松山さん、よろしくお願ひいたします。

【松山章恵氏】 まず南地域全体図でございます。

紫の囲いがしてあります真ん中が南地域です。江南市、岩倉、小牧に取り囲まれて、南小学校を中心として、大屋敷、秋田、豊田という3郷が一緒になってでき上がっている南地域でございます。そして、その中に、黄色いのが事業所、工場、その他、まだ記入漏れがたくさんありますけれども、そういうところには必ず駐車場があります。駐車場の陰というのは人目がありません。本当に危険地帯です。それと、最近のニュースを聞いておりますと、自宅周辺300メートル以内で犯罪が起きている可能性が非常に高うございます。

それとペケ印が入っておりますところ、これが通学路で非常に危険地帯であるということ、小学校やPTAなどからいろいろ資料をいただきまして入れてみました。そうした危険地帯を歩いて、子供たちは学校まで来るわけですね。

それと、この地域の中には、非常に大きいアピタですとかヨシヅヤという商業施設がご

ざいます。かつて、私が50年前、こちらへ参りましたときは本当に田んぼの真ん中、各集落が3つ点在していて、はるかに隣の集落まで見えるような状態でございましたけれども、今は100メートル先が見通しができないような状態のところですよ。そして、大きなトラックが出入りした中を、本当に危険を伴って子供たちは学校へ通学しております。そういう中で、私が約30年前にパトロールを始めたころに比べますと、本当に危険だなあというふうに思っております。

以上の点を踏まえながら、子供たちと一緒に出かけるときには、まず携帯電話を持ちます。この携帯電話の中には、子供たちの保護者から了解を得て電話番号が入っております。何かあったときには連絡をするということと、それから集合地帯から歩き出したら、忘れ物は家に取りに行かせません。おうちに連絡をして、途中まで持ってきてもらうか、学校まで持ってきてもらう。連絡がつかない場合は、本人を納得させて学校で対応していただくようにというふうに話をいたしております。

そして、私は、帰り道は通学路以外の道、生活圏の中の近道、集落の中の細道、そういうところをぶらぶらと歩いて帰ります。

私の持って歩くものは、まず何かあったときには呼子、それから横断歩道のときには、学校からお借りしております交通安全の旗振りをやっております。一番恥ずかしいなあと思いましたが、初めこれをつけるときは、どこかの工場の旗振りのおじさんがつけるようなものですので、いささか恥ずかしく思いましたけれど、これが非常に役立ちます。

「御苦労さま、パトロールしているんですね」と言われるんですね。特に車をとめようと思ったときには、これを着ていることによって相手がちょっとちゅうちょして、とめてくれます。それと、帰りに集落の中の細道を歩いているときに、普通にぶらぶら歩いておりますと不審者だなと思われるかもしれないですけど、これをつけておきますと、「パトロールなんですね、御苦労さま」と言われるということで、これをつけることは非常に有益でございます。

まだお話ししたいことはいろいろありますけれども、ひとまずこれで私の、あとは村田さんのほうから、またこの地図と同じような、子供たちの集合場所なんかについてお話しいただけると思いますので、よろしく申し上げます。

【座長】 それでは、村田さん、よろしく申し上げます。

【村田充良氏】 豊田グリーンランドパパの村田でございます。

豊田グリーンランドパパは、平成21年12月から鈴木代表がやられまして、その後、平成22年2名、それから平成23年3名、平成25年1名の参加がありまして、現在、7名で豊田地区、大屋敷地区の見守り活動を行っております。

私たちは、子供たちがより安全・安心に登下校ができるように、最も交通量が多い道路を重点的に活動しております。

ちょっとこれは見にくいかもしれませんが、今現在、小学校区の中にこれだけの子供たちが集合する場所があります。途中の箇所もありますけど、大体23カ所あります。その中

で特に我々グリーンランドパパは、この南御供所、西御供所、中御供所、東御供所、それから奈良子、特に甚佐橋のところを中心に、平成21年度からずうっと毎朝、重点的に立って子供たちの登下校を見守っております。今、午後は2回、低学年、高学年の子供たちが下校するときに、この危険な箇所を、今現在立って見守りを実施しております。

これが小学校の通学路の状況です。このように、特に豊田の御供所地区というのは大企業が集中しておりまして、例えばこれは御供所の中なんですけれども、車がすれ違えない状況で車が通過しています。これが大体、今1時間に南行きが384台、東行きが同じように380台、子供たちが通るこの場所にかかなり集中して車が通る、非常に危険な場所でもあります。

これは我々がちょっと黄色く見えますが、実際はグリーンなんですけれども、会員がそれぞれ子供たちが安心・安全に渡れるように見守っておる状況でございます。この写真を撮ったときは、写真を撮るために車が来ないときに撮っていますので、あんまり車の量が見えませんが、実際はすごい車の量が通過しております。

これも同様でございます。これは登校のときの写真なんですけど、ここを見ていただくとわかると思いますが、子供は側溝の上を歩いています。これが現実です。朝はここに物すごい量の通過車両が通っています。実はきのう、ここに町から緑のグリーンベルトを施していただいて、もうあと多分二、三日の間に白線も引かれて、子供たちが安心して渡れるように標記されてくると思います。

私たちが活動し始めたころは、こういったグリーンベルトというのは一切ありませんでした。これは随分町のほうにもお願い申し上げまして、今、ほとんどこういったところにグリーンの通学路標示、ここにも見えますけれども、こういったものを随分やっていたけるようになりました。

我々は、この見守り以外にもやっておりますが、例えばここに見えますが、子供たちが通学する道路があります。ここに最近、この通過車両からごみをどんどん田んぼの中に捨てていく人がおります。私たちは、子供たちが通学するところのごみ拾いを実施しております。これは道徳の一環といえそうなんですけれども、子供たちにごみは捨てないようにしようということを見せるために、子供たちが通過するときに、こういったごみ拾いをやっております。これは五条川の中のごみ拾いです。これも、きれいな桜が咲く五条川にごみがどんどん捨てられるのを見るに見かねて、我々はこのごみ拾いをやっております。

写真はないですが、通学路が春から夏にかけて、子供の背丈ぐらいに草が伸びてきます。非常に車から見えづらいものですから、我々で通学路の草刈りなどをやったりしています。

一昨年から、子供たちを相手に餅つきをやろうと。これは、毎日子供たちの見守りをしておりますと、実は私たちが元気をもらっているのは、子供から元気をもらっているんですね。朝、「おはよう」と言うと「おはようございます」という言葉が返ってきます。これをやり始めたころは、こんな言葉はなかなかなかったんですけれども、今は、朝、「おはよう」「おはようございます」、帰りは、「お帰り」と言うと「ただいま」と言う。

今、小学生が町長がおっしゃられている50年後、ちょうど我々の年代に至ったときに、子供たちが僕らのことを覚えていてくれて同じような活動をしてくれれば、より住みやすい大口町ができるんじゃないかと、そういう思いだけです。50年後は、我々はもう生きていません。もう骨になっておりますけれども、意思だけは残って、やっぱりそれが住みやすい、安心・安全に暮らせるまちづくりの一つになるんじゃないか、そういうことでやっております。

この餅つきもそうです。私たちが小さいころは、家で餅つきというのは普通やっておりました。最近の子供は、家で餅つきをやることはないですね。やっぱり子供たちにふかしたお米を、僕は子供のころ、ふかした米を取って食べた、甘くておいしい思い出を持っています。ところが、今の子供たちは知りません。そういう子たちにそういうものを食べさせてやろうと、そういう気持ちでスタートしました。今は区の方も随分協力いただきまして、餅つきに参加いただいております。

それから、我々の活動は、先ほども報告がありました登下校予定表を先生から毎月いただいております。それをもとに、今現在、登下校の見守りを実施しております。

あとは、ここにもありますが、小学校の先生たちと情報交換会、それから町民安全課、町ですね。町の行政の方たちとの懇談会を実施して、我々が常日ごろ活動している中での問題点等々のお話とか、逆に町からの要請を聞くというようなことをやっております。

それから、ただ1つ、ここには載っていませんが、小学校の先生たちに、朝、一輪車を持って通学する子が随分見受けられました。最初、我々はそれは普通と思っていたんですけども、実際に一輪車を持ってみたら結構重いですね。朝、学校へ行くときに10キロ近いかばんをしょって、体操着を持って、運動靴を持って、一輪車を持っていく子は随分苦労しています。それを見て先生にお話ししたら、一輪車が一部壊れているのがあるかもしれないということでしたので、我々は去年の5月、一輪車を一遍子供たちのために、一人でも一輪車を持って学校へ行かなくてもいいようにしてやろうという気持ちで、一輪車の整備を去年実施いたしました。

地区内の問題点なんですけど、見ていただいたとおり、これは中学生です。車がすれ違えないぐらいのところを中学生が通っています。これは八剣社の前です。町内の生活道路の中に、これだけの車がどんどん入り込んでいます。1時間に380台の車、合わせると800台近い車が中に入ってくるわけです。こんな危険なところを子供が今歩いているんです。これが緑の線です。そんな状況の中で、我々が気がついたところは、ここにも書きましたけれども、交通規制というものが一切ありません。僕に言わせると、無法地帯です。だから、スピード規制すらない。それから、ここにありますけれども、一時停止線、線はありますが標示はありません。だから、誰もとまりません。こういったところがよく今まで事故が起きなかったなあというのが実感です。ただし、交通事故は起きています。前の車がとまると、後ろからどーんとおかまを掘ったりする、そういうことは実際起きています。

それから、写真がもう1つ前になりますけれども、ここを見てください。ここは中御供

所の集合場所です。実は大人がいないんですね。子供はここに集合して、ここからこの緑の線を渡ります。僕は、できる限りぎりぎりまでここに立っているんですけども、ここを通過車両が、先ほどの車がどんどん通過します。そういったときに、地元の人、見守ってやる大人がいないというのが非常に危ない状況だというのは感じております。このようなところを改善しないと、子供たちを安全・安心に登下校させるということが非常に難しいと思います。

実はこの中で、私自身も車に2回はねられました。1回は横断歩道の上、1回は赤信号の停止線があるところ、これは車が朝通勤で急ぐために、無視していくんですね。

僕はいつも思うんですが、子供の前を歩いていて僕がはねられてよかったなあと。これが、もし子供を先に渡していたら、子供がはねられているなあというような非常に怖い目を何回もしています。ぜひ一人でも多くの地域の方がこういった危険箇所立つことによって、抑止力になっていきます。

将来、大口町をしょってくれる若い子供たちが安心・安全に暮らせるような地域を目指していきたいと、このように豊田グリーンランドパパは思っています。だから、体が続く限りみんなでやっていこうと、このようにやっておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

【座長】 どうもありがとうございました。

続きまして、千田先生、よろしく願いします。

【千田校長】 南小学校の校長の千田でございます。

日ごろは、本校の教育活動に、地域の皆様、御理解、御協力をありがとうございます。

また、本日は子供たちの安心・安全のためということで、大変多くの皆様方が関心を持ってお集まりいただき、ありがとうございます。

さて、本日のテーマであります安心・安全への取り組みということでございますが、まず本校の校区の特徴は、非常に大きいと。町内の小学校の中でも南から北まで、本当に校区が広いということ。それから、今、話もありましたが、朝の通勤の車の流入が本当に激しい。少しでも東へ、南へ早く行こうという車で、細い道へもいっぱい入っていきますので、そういった部分、それから大きな県道が通っておりますので、県道を大型の車両がかなりスピードを上げていくと、そんなような特徴があるかなというふうに思っております。

先ほどからいろいろ発表していただいたボランティアの皆さん、それからPTAの方も学校までずっと付き添いで来てくださる方もございます。そういった方々の支えで何とか大きな事故が起きずに済んでいるのかなというふうに思っております。

さて、現状ということで、ここに本校の不審者、それから交通事故のハザードマップを持ってまいりました。ちょっと見にくいですが、拡大するとこんなふうになっております。これは22年4月以降の交通事故、それから不審者をポイントでまとめてあります。ここ2年ほど、どんなことがあったかという現状報告ということで、話させていただきます。

まず、このポイントです。24年5月、ちょうど大口中学校のグラウンドの前の横断歩道

のところなんです、ここで下校した後の子供が車と接触しております。ここは横断歩道だったんですが、その前後に駐車車両がありまして、結局、車から子供が出てくるというケースでした。

それから、24年7月、桜橋、これは登校中にちょうど左折してくる車、子供たちは桜橋の道を渡るところなんです、そこのところで左折してくる車と接触するということがありました。

それから、ここは25年12月、つい最近なんです、集団で下校しているところで、1・2年生の児童に握手をしようということで、ちょっと声かけがありました。不審者ということでポイントが上がっています。

今度は南のほうですが、まず下のほうで、これも休みの日ですが、24年7月、自転車と自動車が出発点のところで接触事故がありました。

それから、25年3月、佐野医院のところで自転車と自動車の接触の事故がありました。

それから不審者の関係ですと、堀尾公園で男の子なんです、ちょっとわいせつな声かけという事件がございました。

あと、ここが不審者の中でもかなり悪質な件なんです、女子高校生がちょうど帰宅中に車からスプレーでばっと噴射された、これについてはかなり悪質で、2回噴射された。女子高生は、ちょうど本校のほうに逃げ込んで何とか難を逃れたというような件がございました。

このマークのほうは22年4月以降ということで、本校の子供の件だけじゃなくて、中学生、高校生についても、一応こんな形でポイントとして出ております。

あと、黄色でナンバーがついているのは、御協力いただいています「こども110番」のほうもこんな形で記録にしております。

そのほかのところでは本校の取り組みということですが、まず連れ去り防止教室ということで、愛知県警の防犯チームの「のぞみ」というのがありますが、そこに来ていただいて、不審者から身を守るための劇であるとか、あるいはついていけないとか、そういう「つみきおに」という標語で子供たちに意識をさせているんですが、そういったことの取り組みをしております。これは、昨年度（24年度）ですね。

それから、本年度につきましては交通安全教室ということで、今度は県警の交通安全の「レディースあゆみ」というチームがございまして、ここに来ていただいて、また同じように交通安全教室のほうも行いました。これはことし行ったんですが、「正しい自転車の乗り方」というテーマで行いました。真ん中の右側の写真は、本校の職員が2人乗りは危険だよという例を示しているところでございます。

この2つの教室については1年置きで、連れ去り防止教室をやって、交通安全教室をやって、また来年は連れ去り防止教室ということで、県警のほうから来ていただいて取り組んでいくということをしております。

そのほか、4月には通学路点検、それから先ほどマップのほうでも出てきましたが、こ

ども110番の家のところへ毎年挨拶に行くと。

それから、登下校については通学班がベースになっておりますので、適宜、通学班集体会や班長会で通学路の危険箇所、あるいは不審者の関係のことであるとか、そういったことの情報を吸い上げたり、あるいは何か注意を促したりということをしております。

それから、先ほどボランティアの方々からの話もありましたが、定期的に情報交換を行うと。

それから朝会ですね。大体月曜日に毎週行っているんですが、大体月1回ぐらいは交通安全についてのいろいろ材料を持ってきまして、少しでも子供たちの意識が高まるようにということで進めております。

それから、ちょっと切り口が違うんですが、今、交通安全、それから防犯ということで大体話してまいりましたが、もう1つ、子供の安心・安全といいますと、防災の部分がございます。毎年、6月の土曜学級の折に、地震の注意情報が出た場合、あるいは防災関係で非常に危険な状態になったときに、一斉に保護者の引き取りができるようにということで、児童の引き取り訓練というようなものも行っております。

先ほど安藤さんのほうからお話がありましたが、昨年度、交通安全総点検というのも行いました。警察、町、学校、あるいは地区の皆様方、それからボランティアの方々で通学路の危険箇所の一斉点検を行いました。これだけ大勢の方々が集まってずうっと歩いてみますと、具体的に危険箇所はきちっと洗い出すことができたかなというふうに思っております。ただ、この24年の件につきましてはコースが限られていましたので、替地の方面と御供所の方面と2コースに分けて行っております。

そのほか、登校中の子供たちに、家の前で声かけを毎日してくださっている方も見えます。

こういった交通安全、それから防犯に対しては、地域全体で子供たちを育てていくという気持ちで、地域全体で見守っていただけると本当にありがたいなあというふうに思っております。そのための情報発信等も、学校のほうもしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

【座長】 ありがとうございます。

それでは、鈴木町長、よろしく願いいたします。

【鈴木町長】 皆さん、おはようございます。

きょうは休日ということで、出にくい時間に皆様おいでをいただきまして、本当にありがとうございました。

南地域懇談会ということで、たまたま私も南の人間なものですから、きょう発表されたボランティアの皆さん方の日ごろの活動に対しまして、本当に深く敬意を表し、感謝を申し上げる次第でございます。

町長という立場からお話をさせていただきますと、今、まさしく見ていただきました、そして発表していただきました皆さん方がやられている行動、またその活動が今回の自治

組織をつくっていく上において根底にある部分であるということ、皆さん方にまずもって認識をしていただきたいというふうに思っております。もちろん、個々のボランティア、そしていろんな意味での活動をしていただいている地域の皆さん方にとりましては、御存じのとおり、3郷から成る南地域でございますので、どちらかという、その郷内のいろんな面での問題点等々につきましては、郷の中で活動されている皆さん方が一番よく御存じだと思うんです。

ただ、その中で問題なのが、先ほどもちょっと校長からも話がありましたように、いわゆる境目、そして大屋敷と豊田というお話がありましたランドパパの皆さん方、そうなりますと、今度秋田の地域が抜けておるとか、そういういろんな部分がある箇所が出てきておまして、私たちが餓鬼のころと言ったら怒られますけど、子供のころには、正直言って南の、大屋敷であろうが、豊田であろうが、秋田であろうが、ほとんど自転車で駆けずり回っておった。松山さんが先ほど50年前にこっちへ来たときには、田んぼの中に集落があっただけという地域であったものですから、逆に言いますと、そこを自転車やら、そんなもので走り回っていても、あれはどこの子供だわ、どこのやんちゃ坊主だわというような場面が、ここにきょうお集まりの各皆様方は、多分実感して見られたんじゃないかなというふうに思います。

ただ、先ほど玄関先で毎朝立って待っていてくれる、そこのおうちの方たちが挨拶運動なんかをしていただけるというようなことではありますが、残念なことに、今は反対に、例えば私が子供としますと、副町長が、実際に見ますと1つしか違いませんが、おじいさんだとします。僕が小学生だとします。そうなりますと、おじいちゃんから言わせると、僕みたいな若いやつは、あれはどこの子供だがやというのはすぐわかる時代だったんです。今はそうじゃなくて、子供も、その当時ですと、僕もどこの、ああ、大森のおじいだがやぐらいの世界でやってきた時代だったんです。ところが、今はそうじゃなくて、おじいさんのほうはわかっているんですが、子供のほうがどこの子かわからないという、どこのおじいさんなのかというのがわからない。だからこそ、先ほどちょっとあった不審者の、いろんな人たちが声をかけたりとか、どこのおじいちゃん、おばあちゃんとわかれば安心して自分たちがついていけるというようなところもあるんでしょうけど、それがなかなかそういうふうになっていかないという難しい時代というか、隣のおうちは誰住む人ぞの世界になってきていると。

大口町というのは、そういう意味でいきますと、今まで50年間、本当に皆さん方のお力でこのすばらしい町にさせていただいて、そして一番住みやすい町であろうということで、ほかの市町村に住んでみえる方たちが、この大口町に本来でしたら住居を構えたいという方たちがたくさんおいでになる地域なんです。

ですが、その中であつても、やはり今言われるような、こういう問題点というのがたくさんありまして、これはやっぱり一地域の一郷内で考えることではなくて、皆さん方からお話がありましたように、今言われる郷内じゃなくて、その地域、小学校なら小学校単位

で皆さん方にいろんな意味でのあわさった考え方、もう1つ言いますと、さっきグランド
パパの代表の方がお話しされましたけれども、先ほども言いました豊田と大屋敷、そして
その中に秋田という地域が入って、これで3郷が一体になっていける。そういう場面を
私ども行政から皆さん方にお声かけをさせていただいて、何とかこういう地域をつくって
いただきたい。

そして、将来私たちが、先ほど、そのころは私たちは骨になってしまっておるだろうと
いう話をさっきされましたけれども、そういう時代になっても、やっぱり子供たちが安心
して、安全で、またほかの地域の人からうらやましがれるような町になってもらえるよう、
今こそ私たちがその郷内じゃなくて、地域をまとめた形での運動をちょっと拡大していく
ために、どうしてもこういう活動を皆さん方をお願いをして、きょうはたまたま子供さん
の交通安全、そして安心・安全という部分をキーワードにさせていただいておりますが、
この町にはまだまだいろんな意味での問題点というのがたくさんあります。

先ほど通学路の清掃をしている場面、ここですね。一番上の部分のその下の、皆さん方
からいくと左の上の写真なんです、この部分が先ほどお話がありましたように、草刈
りをやったりとかという部分です。これは30年ほど前に圃場整備をやったときに、この道
路をつくったときののれという部分なんです、これは正直言いますと、この土地を持っ
てみえる方の土地じゃないんです。うちの建設部長がおりますので後から説明してくれる
と思いますけれども、ここはこの道路の一つの支えになっているという部分なんです。こ
のため、これはこっち側にU字溝が多分入っていて、ふたがかぶっていると思うんで
すが、その中で、先ほど子供たちがここを歩いていくというお話がありました。歩くため
にこれをどうしたらいいかとなりますと、こののれという部分をもし改良したとします。
この間は大体1メートル50ぐらいの距離があります。そうすると、どうなるかという
と、道路が1メートル50ぐらい広がるでしょう。そうすると、子供たちがもっと安心して歩
けるだろうというような考え方も、やっぱりこの中から出てまいります。

そういう、余り皆さん方が日ごろ使ってみえるがゆえに気がつかれない部分、そして先
ほど背丈ぐらいの草が生えてというような話もありましたけれども、そういうものを考え
ていただきますと、まだまだ行政として、そして各区の皆さん方、そして地域自治組織の、
いろんな意味で皆さん方の声を全部集約したような形で、この町をどうしたらいいのか、
この3郷をどうしたらいいのかというところに観点を置いていただいて、今、私が簡単に
人が歩くためにこのところが要るだろうという話をさせていただきましたけど、もし南海
トラフの地震、もしくは今言われる地震等々があったとします。

そうしますと、よく皆さんはテレビで見えてみえると思うんですが、道路がこの横から崩
れ去って、この舗装された道路がべこっとへこんだところって、よく被災地の写真とかテ
レビで見られたと思うんですが、ここが崩れ去りますと、この道も崩れ去ります。そうす
ると、今言われるように車が通行できなくなる。そして、そのまとまっている3郷が寸断
をされてしまうという可能性が十分にあります。

そうすると、いろんなところに皆さんがお集まりいただく場所が設定をされているんですが、その設定をされている場所と場所との連絡というのがなかなかできにくくなるというような場面も出てこないとも限りません。それと、地震があるとも限りませんが、ないとも限りません。

そういう意味からいきますと、キーワードは、もちろん子供たちの安全・安心という部分なんですけど、その部分が皆さん方に、もうちょっといろんな意味での視点というものを広げていただいて、じゃあ秋田と豊田の間で一番重要視、住民が本当に一番よく使う道路、もしくは大屋敷と豊田が一番よく使う道路、この道を寸断してしまいますと、まとまっている地域が全く連絡がとれなくなったり、通行できなくなったり、物を移動したり、そして食料、水なんかを運搬したりすることができなくなるというような場面も出てこないとも限りませんので、きょうしていただくお話の中で、私たちが行政の立場で皆さん方をお願いをしたいのは、これからそういういろんな危機管理の問題の中で、どんな形として、どういう組織をつくっていただいて、どういう形での連携をしていただけるかということを考えていただきたい。

そして、3郷と先ほど申しました。この大口町には3つの自治組織がございます。その3郷で1自治組織、その1自治組織がまたその3つの自治組織の間での相互交換というものを固めていただきまして、そして連絡等を密にさせていただけるような形をとっていただいて、そしていろんな意味で町内全体が安心・安全で皆さんが暮らしていただけるという場面をぜひつくっていただきますことをお願い申し上げ、そして日ごろ皆さん方が子供たちのために活動していただいておりますことに対して本当に深く感謝を申し上げ、そしてまたこれから何が起こるかかわからないという時代に入ってまいりました。私たちが50年後に子供たちにこの町を渡せるかということになってまいりますと、本当に大変難しいことになってまいりますので、ぜひそこら辺のところを皆さん方にお考えをいただいて、またそんな場になっていただきますことを心よりお願いを申し上げまして、私の発言とさせていただきます。ありがとうございました。

【座長】 今、パネラーの皆さんから、いろいろ活動報告とか、お考えをお話ししていただきました。

あと、まだ町の職員が2人残っておりますけれども、時間が過ぎておりますので、これからの話し合いの中で、町の職員については、必要であれば意見を述べていただくということで、よろしく願いいたします。

それでは、今、いろいろ活動報告をしていただきました。特に実際に活動されております3名の方については、活動してみえる方ならではの発言があったかと思います。

そうした中で、私、少し注目したのは、安藤巖さんからもお話がありました。それから千田校長先生からもお話がありましたけど、平成24年の交通安全の総点検ですね。これは一部であったということでもありますけれども、警察、学校、町の職員、PTAというような形で点検ができたということでもありますけれども、このできた経緯というのを少しお話を

いただけますか。

【千田校長】 自分が答えていいのかわかりませんが、この交通安全総点検というのは、主体は警察と町民安全課という感じですね。江南警察の管内で江南市が2回、大口と岩倉が1回ずつということで、4年に1回こういう事業が回ってくるということで、ちょうど昨年、大口町に回ってきたということで、大口南小学校のほうで行わせていただきました。

実際に警察の方、町民安全課、教育委員会、それから地区からは区長さん、丹羽地区の役員さん、それからきょう来てみえる交通ボランティアの方々、それから学校のほうと、かなり大勢の人間で一斉にずうっと通学路を歩いて、それぞれのところをチェックしていくと。

ちょうど警察も来ていましたので、交通法規の関係で、例えばここに信号がどうしてつけられないんだというようなことに関して具体的にその場で説明を受けたり、あるいは町の段階で標識であるとか、そういった標示がここは必要だねというようなものについては、実際にその現場で、こういうようなところ、こういうようなところというふうに指摘を合ったり、あるいはそういったことが可能であるかというような検証ですね。そういったこともその場で実際に大勢の目がある中でやっていったということに非常に大きな意義があるかなというふうに思っております。実際、その後、いろんな標示とか、そういったものもすぐやっていただいたこともございます。

だから、ある意味、本当に地域の皆さんも含めて大勢の人が参加して総点検ができたということで、よかったなというふうに思っております。

【座長】 今、交通安全の総点検を平成24年に行ったということで、これは今お話を聞くと、江南警察署からの提案ということでありましたが、今、町長からの話もありましたけれども、危機管理の中でどういう組織をつくって、どのように連携できるか考えていきたいということでもあります。

今、校長先生のほうからもお話がありました、大勢の目を見たことが意義があることだったということですが、そうした各組織、それぞれ活動してみえる団体、あるいは地域の連携ということについて、皆さんいかがでしょうか。

【三輪初昇氏】 私ども自治組織については、まだ発足したばかりでございますので、きょう皆様方が実際に活動してみえる内容をお聞きしまして、本当に御苦労さまだなあということをおもうわけですが、こうしたことをこの新しい自治組織の中で、今まで行政区としてできなかったことを、3地域を通して何が必要だということのまず課題を上げて、その課題をどうしたら解決できるかということまで、今活動してみえる方々の御意見をよく聞いて、本当にやれることをやっていきたいということをおもうわけです。

きょうのお話の中で、テーマが通学路ということでございましたけど、私が個人的に思うのは、通学路というのは集合場所から学校までということだと思います。集合場所へは、今、子供さんが少ないものですから、それぞれ集合場所へ父兄の方の送迎があるのかどう

かわかりません。そこにも、当然道路を横断するだとか、先ほどお話があったようなことが多々あるんじゃないかと思います。そうした集合場所までのことについても、私ども組織としては取り組んでいかなければならないということは、地域全体のことに関係してくることだと思います。

そうしたことで、先ほど町長さんのお話ありがとうございました。3地域の自治組織が今定例的に情報交換ということで、競争するという意味じゃなしに、いろんな意味でいいことならこちらも取り入れればいいしということで、情報交換をやっておりますので、今後もそれは続けて、大口町全体が住みよい町になるように、今後も努力させていただきたいと思っています。

【座長】 ありがとうございます。

実際に活動されております立場から、松山さん、いかがでしょうか。どういうふうな連携ということですけども。

【松山章恵氏】 まず、安全対策の体制づくりということが必要ではないかと考えます。それには、まず保護者、地域住民、パトロール隊、それからスクールガード、まちづくり委員会などとの連携をとりながら、情報交換をし、情報発信し、それぞれに依頼し、そして警察とか学校などにメール登録を最近なさっておいでになりますので、でき得れば携帯電話をお持ちの方などはそういうものに登録していただきますと、常時いろんな情報が入ってまいります。例えば、今から台風が来るから子供を早く帰しますので御協力をというのが入ってきますし、どこどこに不審者が出ましたという情報も入ってまいります。そうしましたら、御近所にいらした方がそこへ駆けつけるというようなことをしていただければ未然に防げると思います。

ここ10日ぐらい前に、五条川沿いの遊歩道を南小学校まで、あれは丸地域からアピタの前を通過して甚佐橋まで来る間、民家はないんですね。そこに往々にして犯罪者というか、そういう不審者が出ております。

ここ10日ほど前、ヨシヅヤの裏のあずまやのところに、朝、寝袋で寝ている、後になってわかったんですけど、中身は浮浪者でした。寝ておまして、自転車に荷物をいっぱい積んでおりましたので浮浪者だなと思いながら、私どもはちょっと遠回りをしながら学校まで送りました。その後、そこでグランドパパの方がちょっと注意に行ったら、そこでちょっとトラブルが起きて、やはり暴力を振るわれたようで、警察に来ていただいたという話があります。それが万が一、子供がちょっかいをかけてそういう問題が起きたとしたら、これはゆゆしきことだなあというふうに思いまして、意外と歩きやすいですけども、五条川沿いの遊歩道は危険地帯です。

先ほどの私の地図の中でも、今まで起きたところにバツテンをしたり、要望が出ておるところ、改善していただきたいところというものが、さっき片づけてしまいましたけど、その中に書き込んでありますので、そういうところを気をつけていただきたいなあと思います。

それともう1つ、「110番の家」というのがあるんですけども、子供の通学路の中にそれが少ないんですね。子供は防犯ベルをかばんにぶら下げておりますけれども、あれは、とっさに子供が鳴らすということをしません。私もかつて携帯電話を誤作動して鳴らしたことがあるんですが、意外と誰も注目してくれません。駅の構内でそれをやって、こっちが慌ててしまいましたけれども、意外と皆さんは無関心です。ですので、そういうことの対策をどうしていったらいいかなあというふうに思っております。以上でございます。

【座長】 ありがとうございます。

今、例えば五条川の遊歩道は、歩きやすいですけども危険であると。防犯と交通安全というのは裏表かなあということも感じるわけですけども、危険地帯にもなり得ると、五条川の遊歩道というのは。

そういった情報があるわけですけども、そういった情報を学校、地域、それから行政が共有をするということが非常に大事ではないかなと思うわけなんですけど、安藤さん、そういった情報の共有をするということについて、例えばどのようなことがあれば共有しやすいでしょうか。

【安藤 巖氏】 現在では、小学校さんからそういうメールが届いておりますので、私どもはある程度共有しておるんですけども、また一般の保護者さんにも来ていますので共有しておるんですけども、地域全体では限られた人しか共有していないものですから、できたら、先ほど先生から、そういう交通事故とか防犯のあれがあるものですから、どこかで流してもらえるとありがたいなあ。

なかなか知らない人がたくさん、きょうお見えになった人でも、ああ、こんなことがあったのかという方が多いと思いますので、もし発表できる範囲内であったらひとつお願いしたいということですね。

それから、若干今町長さんからお話がありましたように、私どもが小さいときは自転車とか何かですぐ、学校から帰ると勉強をせずですぐ遊びに行ったというか、ある程度のところは自転車で、歩きか自転車で通ったんですけども、現在のお子さんというのは、メールなんかでうちに閉じこもったり、閉じこもらない方は塾へ行かれるものですから、なかなか地域で遊んでいる方が少ないですね。そうしますと、私どもも誰がどこの子だかさっぱりわからんというようなこと。特にそういう防犯の関係で、今現在、子供さんは学校では名札をつけてみえるんですけども、うちへ帰りますと全然、名札も、それから靴に名前を学校なんかではつけてみえるんですけど、何もわからないですね、全然わからないです。

そういうこともあって、地域では誰がどこの子か、一部の方はわかるんですけども、なかなかわからないですね。何かの行事があって親御さんと見ると、ああ、あの子はあそこの子だなあというぐらいしかなかなかわからないというような現状です。これも防犯上やむを得ないと思うんですけども、ただでさえ遊びに来ない子が余計わからないということで、できるだけ地域の方もそういうことに關心を持ってもらえるとありがたいなあ

と思っておるんですけどね。

なかなか難しいですけれども、やっぱり少子・高齢化で数少ないお子さんなんですから、大事なお子さん、将来の町を担ってもらえるお子さんなんですから、やっぱり地域全体でカバーしないといけないということ、なかなか難しいんですけどね。

現在、特に私が住んでいる替地地区ですと、私どもの小さいときは40戸ぐらいしかなかったんですね。それが、今現在350戸ぐらいに急激にふえまして、大人の方でもどこの方かわからないというのが現状ですから、なおさら子供さんはわからないということがありますけれども、やはり地域全体で子供さんをカバーするという考え方が大事じゃないかなと思っています。

【座長】 ありがとうございます。

今、地域全体で子供の安心・安全についてカバーするべきではないかというようなお話をいただきましたけれども、この間、お話をしている中で、携帯に安心・安全の情報が流れるということで共有ができるということがあるわけですけども、保護者の観点から、そういったものが流れたときに、その対応ができるのかどうなのか、宮地さん、よろしくお願いいたします。

【宮地俊行氏】 メールが届きまして、少し時間差があるんですけども、大体そういうときは子供に、きょうこういうことがあったんだねと言うと、子供も知っておりまして、学校で教えていただけるみたいで、その辺については内容ですね。小学生でもわかる程度ぐらいで話したりとかしますし、気をつけなさいねというぐらいで。

先ほど、ヨシヅヤの裏に浮浪者の方がいるという話は、正直初めて聞いた話なんですけれども、そういったのも、さすがにメールとかで、そういう方がいましたというのはどうかとは思いますが、そういう情報とかも何らかの方法で流していただくと、そのときのタイミングで子供にそれをきっかけで話すことができるかなという観点から、こういう人はこういう人でこうだよというような、それも一つの勉強かなというふうなきっかけづくりとしてしゃべれるかなとは思いますが。

ですから、そういったパトロールとか、どんどんやっていただいておって、いろんな情報を持っているので、それを何らかの形で保護者の方に、その都度その都度緊急で発信すると、どうも過敏に反応してしまうと、パニックですか、間違った情報が先走りしてしまうので、落ちついた段階でこういうことがありましたというような、軽く流していただければありがたいなと思いましたが。以上です。

【千田校長】 学校のほうは、保護者の方、それからボランティアの方々に緊急メールということで登録していただいて、適宜情報を流しております。ちょっと残念ながら、地域の方に流すような手段は今のところ持ってないんですが、ただ、何か案件があった場合には、教育委員会のほうから町のほうへ流れて、町のほうからメール配信のほうに流れるようなシステムはとっております。

それから、先ほどの浮浪者というか、ホームレスの方の件については一応流しました。

ただ、これはちょっと微妙なんですよね。浮浪者イコール不審者、悪い人ということでもないものですから、そのあたりの線引きもちょっと微妙で、たしか文面は、昨夜からそこにずうっと寝ている人がいましたと。その件に関して、ちょっと注意していただくようにというような形で流したと思います。その日は一斉下校でしたかね、下校のところはずうっとボランティアの方にも入っていただいたり、あるいは下校指導で教員のほうもついていきました。

ちょっと違うところからですが、先ほどいろんな、町長さんも言われたんですけど、この地域の人と子供たちとどうやってかかわっていくかという部分が結構難しいなというところはございます。子供たちには、うちの人だけじゃなくて地域の人にもみんな挨拶しなさいねという指導をしています。一方で、知らない人とは話しちゃいけないよという指導もしているものですから、相反する、こういった部分のジレンマもあるかなというふうに思います。

ただ、この南の地域は、特に管内のいろんな学校を見渡しても、地域で子供を育てていこうという温かい雰囲気があるところだなあというふうに、ある意味、昔からの地域のよさが残っているところじゃないかなというふうに思います。

先ほど登校中に声をかけていただける方もあるよというふうに言いましたけど、例えば下校指導なんかでついていっても、畑で何かをやっている方が「お帰り」と言って、子供が「ただいま」というような雰囲気がありますので、そういった部分のその地域の温かさ、そういうのも上手に大事にしていきたいなど。そういったことも安全体制づくりにつながっていくんじゃないかなというふうに思っております。以上です。

【鈴木町長】 今、僕がこの話をしているかどうかわかりませんが、ちょっと時間をおかります。

今、何が問題になっているかといいますと、要するに通信手段というか、連絡手段というようになってくると思います。きょうは議員の方々もお見えになっておりますけれども、この12月議会のときに、多分御存じだと思いますが、昔の有線がありましたよね。あの有線を12月議会で御承認をいただきまして、全戸に配付をしていくと。

もっと極端なことを言いますと、私もいまだにガラ携の携帯電話を持っておるような者なわけですから、それこそ町長になって初めてその機器の何とかというやつで情報が入ってくるというのを登録したぐらいな立場なものですから、自分の年齢からいきますと、こういうものを扱ってというか、もっと言うなら、タッチパネルのそういうものを扱ってなんていうことはちょっと難しい部分があります。

特に今、本当に一番地域を思っていた方々というのは誰かと申しますと、やっぱり高齢者の皆さん方がおうちにお見えになって、そして高齢者の方たちがその地域を見守っていただいているというのが、私、町長としての立場で発言させていただきますと、本当にその方たちが地域を見守っていただいている。もちろん、若い方もそうなんですけれども、校長や学校の職員等もそうなんですけれども、ただ、本当に子供たちを見守

っていただいているというのは、高齢者の皆さん方が田んぼに行ったり、道を歩いたり、買い物に行ったりするときに、子供たちを遠巻きに見ていただいている、その目、そしてその人たちにこちらから提供できる情報というのは、本当にこれでいいのかなというものを物すごく私個人としては感じております。

うちで、寒いで、暑いでと言いながら、冷房、暖房の部屋におっていただく方々にどうやってその連絡を、もしくは災害が起きたとき、それから事故があったときにどうやって連絡をさせていただいたらいいかということから考えますと、ちょうどきょうは担当の鵜飼部長が来ておりますので、これから配付の機械の内容等々をちょっと御説明させていただくチャンス을いただきたいと思いますが、よろしいですか。

【鵜飼地域協働部長】 町長から上手に振っていただきまして、今度、3年計画で、今年度、ことしの3月からですけど、今、各家にございます戸別の受信機でございますけれども、あれは今現在アナログなんですけれども、あれをデジタルのものでお配りしようと思っております。今度の区長会でその順番等を御説明させていただきますけれども、今それぞれ配付させていただいておる率の多いところから順番に配付させていただくという形で、3年間で希望者の方にお配りしようと思っておりますので、よろしく願いいたします。

今回お配りしますのは、今までの防災行政無線と言っておりましたけれども、今度は無線の周波数を変えまして、コミュニティーにも使えるような無線の周波数にいたしましたので、将来的には地域でも御活用していただけるかなと思っておりますが、順次そういうふうに準備していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、ほかの件になりますけど、私どもパネラーとして時間がございませんでしたので、きょう言っておきたかったことだけ、ちょっとここで言わせていただきます。

まず交通安全の総点検でございますけれども、先ほどPTAの宮地会長さんからのお話の中では、PTAの役員により通学路の点検を行っているというお話がございました。

実は役所のほうでは、道路を建設しております建設農政課と町民安全課と教育委員会のほうと一緒にしまして、これも通学路の点検をしております。ばらばらにしておるものですから、できたらこれも一緒にやれば、そこに警察が入っていただければ総点検と同じのことができるものですから、そういったこともできればなと思っております。

また、先ほどグランドパパのほうからお話がございました、御供所地内のスピード制限がないとかというお話でございますけれども、こちらは江南警察署とお話をしておりまして、来年度「ゾーン30」ということで、あの地域をスピード30キロ制限にさせていただくという計画を持っております。そのために、道路にマーカーをつけたりするんですけども、そういった計画も持たせていただいておりますので、ここで発表させていただきますので、よろしく願いいたします。

また、メール配信につきましては、先ほど南の校長先生からもございましたとおり、いろいろな情報を学校のほうからいただきまして、全町民の方に知っていただいたほうがいいものにつきましては、町のメールとして配信させていただいておりますので、よろしく

お願いいたします。

きょう、とりあえずこの場所に来てしゃべりたかったことは以上の点でございます。どうもありがとうございました。

【座長】 それでは、今、鶴飼のほうからお話をさせていただきましたように、通学路の安全点検ですけれども、そういったことを町も行っておる。その一方で、PTAのほうも行っておると。場合によっては、何年かに1度、江南署のほうから大点検があるというようなことですね。こうしたことが、それぞれの立場で行ってもらってもいいとは思いますが、それがその後、情報をお互いに共有できるようなものが必要ではないかなということをおもうんですが、例えば一輪車の整備を学校との話し合いの中で実現をされた村田さんですけれども、そういった経験からいくと、例えば通学路の点検を一つとっても、ばらばらで行っておるといようなところを、どういう形で改善したらいいのか、あるいは例えばどこがイニシアチブをとったらいいのかというところを、もし何かありましたらお聞かせいただきたいなと思うんですけどね。

【村田充良氏】 非常に難しいんですけれども、やっぱり現場を見るということが一番大事だと思います。これは、実際、我々は朝7時15分から8時15分ぐらいまで約1時間、寒い中を立っているわけですけれども、一回立っちゃいますと、町長も一遍立ってみられたらわかると思いますけど、働いてみえる方たちは、その時間帯というのはもう会社へ行っちゃうんですよ。だから、自分たちが住んでいる部落内がどういう状況になっているかわからないと思います。また、知らない方が多いと思います。

特に僕たちは定年以後、今立っているわけですけれども、近年、生活道路の中になんかの量の車が流入しています。約2年前に大口町、町民安全課が調べてくれました交通量調査結果というのがあります。これは先ほどお話がありましたが、庁内でお互いに共有されているかどうかわかりませんが、これを見ますと実態がよくわかると思います。

こういったことをまず実行しないと、次のステップに何をやったらいいか、誰に伝えたらいいのかということが出てこないと思います。

逆に、今、御供所地内を車が通過しているということは、先ほど町長が言われた、隣の秋田へ流れていくという量にもつながっていくわけですね。だから、その中でお互いに一番危険と思われる地域というのを共有して、何か手を打つような組織、例えば今始まった地域のまちづくりの中でやるのか、それとも別にまた子供たちを見守る安全部会というのを立ち上げるのか、そういうのをやりながら進めていかないと、僕は見えてこないと思います。

それには、くどいようですが、現場を見るということが、一人一人がお互いに問題点を共有しなければ、次のステップへ、ステップ・バイ・ステップで上がっていかないと、思うんですよ。そういうことをやるような形の組織づくりをいち早くつくらなきゃいけないんじゃないかなあと、そう思います。

【座長】 ありがとうございました。

現場確認が連携の第一歩であるということで、それを行うことで現場確認、現場の状況を軸にいろいろな話ができる。

【村田充良氏】 それも朝、通勤時間帯に。

【座長】 通勤時間帯にということですね。そのあたり、建設の野田部長、建設関係を担当しております、どうでしょうか。

【野田建設部長】 今のお話にございました御供所地区なんですけれども、非常に朝夕の通勤の車が多いということは承知しております。その改修、改良については、ここ何年もそういった計画を持って話をさせていただいております。

子供の安全を考えるに当たっては、歩行者と車両との分離というのが一番いい方法だというふうにも言われておりますし、それが一番いい方法だというふうに思います。

ただ、その歩行者と車両の分離ということになりますと、歩道をつくったり、自転車の通行帯を設けるとか、そういった用地的な問題が非常に重要な問題で、その用地を賄うのに非常に時間もかかるというふうなことでございまして、なかなか要望をいただいてもすぐにはできるというようなことではありませんが、私ども道路管理者、建設部としては、そういった歩道が設置されていないところについては、先ほど来、お話が出ておりますように、グリーンの色づけをしております。

それから、そういった生活道路の中で非常に事故が多いということもありまして、交差点での出会い頭の事故を減少させるというようなこともあって、交差点の前後を赤く塗ったり、それからハンプというでこぼこをつけたりして、車の速度を落とさせるというような方法もっておりますが、これは逆に、そのハンプというか、そういったものを設けると、そこで振動とか騒音が出てしまって、地域住民とか近隣の方から苦情が出てくるということで、対策をするにしても、その対策の方法ですね。特徴というか、そういうものを理解し、地域住民の方にもそういった理解をいただいて施工しておるという状況でございまして、先ほど来、学校からもいろいろ要望をいただいております。それから、皆さんのお話の中にもいろいろ話があったんですけれども、全てすぐに対応できるということではありませんが、1つずつそういったことを継続的にやっていこうというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

【座長】 時間が残り少ないわけなんですけれども、先ほど鈴木町長からお話がありました、例えばのり面を使って道路を、のり面というのは町有地なんですけれども、そういったところを使って、必要なところについては道路の幅を一定広げて、通行に支障がないようにしていきたいというようなこと。あるいは防災関係、避難路の確保というようなこともあると思うんですが、そういったことについてはいかがでしょうか。

【村田充良氏】 副町長、もう既に町でやっていただいたところがあります。私のこれを映していただくとよくわかると思うんです。

実は冒頭に映した、この写真がそうなんです。のり面をコンクリートで固めていただいて、通学路を広げていただいております。これはかなり効果があると思います。

ここですね。これは実はのり面だったんですね。この道路幅が非常に狭いために、ここは通学路ですね、ここを60人から70人ぐらいの子供が通っていくんですけど、ここが非常に危なかったものですから、町にお願いしてすぐやっていただきました。こういったことが町長が言われた部分だと思います。これで随分子供たちが楽に通学ができるようになったと思います。実際、町はやっています。応援するわけじゃないですが。

【松山章恵氏】 要望ばかり出しておりましたけれども、その要望についてお応えいただいているのが、今、大屋敷の信号のつけかえです。おかげさまで用地買収もできましたし、近々にしっかりとした、今までコの字で渡っておりましたのがL字で渡れるようになります。コの字で渡ると本当に時間もかかる。あそこは青山製作所の夜勤の車と日勤の車が常時、両脇が駐車場になっておりまして、非常に危険地帯だったんですね。車が曲がってくるのをとめるのにとっても不自由をしておりましたが、今後しばらく、あと一月ぐらいでつきますかね。おかげさまでよくなってもおりますので、お礼を申し上げておきます。

【座長】 先ほどのり面の話ですけれども、これは個々には、実際町としては施工しておるんですけれども、これを町全体を見据えた中で、避難経路、あるいは通学路、そういったものの中で、町全体の中でどこの道路をそういった対応をしたらいいのかというところを考えていきたいというのが今町長の考え方でありまして、個々には要望に基づいてやっていますけれども、それを道路網の全体の中でその道路の役割に応じて実施をしていきたいということなんです。

そういったことなんです、ほかに何かありましたら。

【安藤 巖氏】 秋田地区におきまして、小学校から高橋替地線ののり面を利用して通学路をつくっていただきまして、そこでまたガードレールもつけていただいて、児童が安心して通うような状況になっておりまして、それで、この延長線上で、先ほど申しましたように、町道の横断のところに信号機をつけていただきましたね。そういうことで、町としていろいろなことをやっておみえになりますので、特に鶴飼部長さん、課長さんですが、早速反応していただきまして喜んでおります。

それと、ちょっと話が違うかわからないですけれども、交通安全、防犯もそうですけれども、町で看板を相当保有しておりますので、それを交通安全のほうに利用できたらという意見を出したらやっておりますし、特にここでも言っておりますけれども、のぼり旗、そういう面でも余りあそこは美観を損ねちゃいかんですけれども、町民安全課のほうもやっておみえになりますので、そういうものも利用して、いろんな面をするとお金がかかって大変ですけれども、金のかからないことも考えればありますので、できるだけそういうことを知恵を出しながら、役場のほうと相談しながらやっていきたいと思っていますので、ひとつ御協力をお願いしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

【座長】 それでは、特にこののり面とかではなくて、全体で何か御発言をされたいという方がありましたら、時間も来ておりますのでどうでしょうか。

【鈴木町長】 今言われている、のり面の話もそうなんです、全般的にいろいろなことを

考えますと、のり面は町の土地ということがありまして、お金をかけずに、すぐにでも改良が可能であるというところなんです。

ところが1つだけ問題がございまして、野田部長は大屋敷なんです。一番向こうに座っている鵜飼君なんかは江森なんです。ということになってまいりますと、職員の中で大口町に住んでいる人もいますし、それからほかの地域に住んでいる方もたくさんおりますので、そういう意味からいきますと、職員たちだけで考えるというのは、偏りがちになってくる場合があります。

そして、きょう、皆さん方にお集まりいただいてこういう会を開いていただいた中で、その地域に住んでみえる皆さん方の中から、ここが大事なんじゃないのか、1番でやるならここじゃないのか。それも各区で見ていただくんじゃないかと、各区と区をつないでいく上において何が必要なのか。この道路は絶対必要なんじゃないかというようなことを、ぜひこれから御検討いただいて、ぜひ皆さん方からの御意見を集約させていただけるような会議にしていければ、一番、今後の大口町のためにもなっていくんじゃないのかなというふうに思っておりますので、ぜひそこらあたりを皆さん方にお考えをいただいて、自分の住む町、そして住んでいる地域、そして自分のところの地域だけでは今は済まなくなってきました。

もちろん、さっき言われました車のこともそうなんです、正直言って夜間人口は2万2,800人しかおりません。ですが、昼間人口になりますと3万8,000人、約1万人ぐらいの方たちが昼間、働きに大口町に入ってきてみえます。そうすると、1人1台といひましても、1万台の車が余分にここに入ってくるということになりますので、さっきグランドパパが言われたように、車が多いのは当たり前であります。

ただ、大口町は残念なことに、残念なことじゃないんですけれども、大きな企業がたくさんある。そこから入る税収もありまして、いまだに不交付団体、愛知県でも2番目に裕福な町と言われているという部分もあります。痛しかゆしの部分もありますので、本来ですと、今回は副町長にも相談したんですが、企業の方も入っていただいてというようなことも考えております。

ぜひ、皆さん方の各3つの自治組織の中で、そこに入ってみえる、そこで企業を営んでみえる、もしくは大企業としてそこにある会社の皆さん方も一度輪の中に入ってくださいまして、どうしたらいいのかというような御検討等のお話もしていただきますと、これからの大口町というものを見据えた形での道路網、そして安全、そして安心の方策というものが出てくるんじゃないかなというふうに思っておりますので、ぜひ御協力のほどをお願い申し上げたいと思っております。

【座長】 それでは、時間がちょっと超過しておりますけれども、ここで私のまとめをさせていただきます。

今までの議論の中で明らかになったことを2点、私は考えました。

まず、ハードとソフトですね。いわゆる信号とか道路改良とかといった設備と、それか

らそれを使う人が要るのかなど。そういうようなハードとソフトがともに必要になってくるということですね。

先ほど松山さん、あるいは村田さんのほうからお話がありましたように、信号、あるいはのり面を立ち上げることによって、非常に見守りですね、交通安全に携わっていただく方についてもやりやすくなったというようなことがあります。

そうしたときに、ハードは要望をいただいて、町が警察と話をしたり、あるいは建設のほうで予算を考えながら実施するということになると思うんですが、ソフトについて、これがそれぞれいろんな立場で活動していただいておりますけれども、今回でいえば学校と、それからそういう活動してみえる住民の方、そして行政、あるいは自治組織がいかに情報を共有して連携するということが必要になってくるのではないかなというふうに思っております。

そうしたことについて、村田さんのほうから現場の確認が第一歩ではないかというようなお話をいただいておりますけれども、そういった点を考えながら、実はこういった話し合いをこの場でこのまま終わらせる、ここで終わってしまうということではなくて、こういった話し合いをもっとフランクな形で継続ができれば、情報の交換ができていくのではないかなと、こんなことも思ったわけであります。

いずれにしても、子供については大人たちが、私たちがどう日常的に対応するかということで、安心と安全がいかに守られていくのかということ、この分かれ道にもなるのではないのかということを考えております。

きょうは2月11日ということで、3月11日は東日本大震災が発生して3年になるわけですが、ある小学校ではたくさんの犠牲者が出たということで、その原因究明ということでいろいろ問題が起きておる一方で、釜石の奇跡というような、犠牲者が一人も出なかった学校もあるということですね。これは、明らかにふだんの我々大人の子供に対しての接し方、対応によってその明暗が分かれてきたというようなことを考えますと、きょうのテーマであります、子どもたちの安全・安心を守るということにつきましても、やはり私たちが真剣にこういった話し合いを続ける中で、情報を共有しながら役割を分担して対応していくことが必要ではないかなと、こんなふうに感じたわけであります。

時間が過ぎてしまったわけですが、この後、まだ北と中地域の懇談会をやります。そうしたものを通じながら問題点を洗い出しまして、また反省会というのが予定されておりますので、そういった中で課題を明らかにして、それに対して私どもの対応の仕方も考えていきたいというふうに思っております。こういったことが単にセレモニーというんですか、形として終わるのではなくて、こういったことを積み重ねていって、実際の制度、事業、政策に結びつけていければと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

【司 会】 長時間にわたり大変ありがとうございました。

私のほうからお願いとお知らせがございます。

1つは、入り口のところでお配りさせていただきましたアンケートでございます。本日のテーマに対して、あるいは地域懇談会の進め方に対して、皆様から御意見をいただければと思っておりますので、お帰りの際に御提出をくださるようお願いをいたします。

それから、もう1つですけれども、入り口で配りました中にチラシが入っておったと思いますけれども、3月1日の土曜日午後1時から、町民会館ホールで「あなたが主役！22000の新たな挑戦」と題したまちづくり協働フォーラムを開催いたします。前半は、地域自治組織の設立記念講演といたしまして、四日市大学の岩崎先生より御講演をいただき、後半はパネルディスカッションを予定しておりますので、皆様奮って御参加くださいますようお願いを申し上げます。

以上をもちまして、南地域の地域懇談会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。